

大原中だより

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397
FAX 048-835-1357
第 3 号

はつらつとした学校、地域に輝く学校

平成30年6月1日(金)

メールアドレス:ohara-j@saitama-city.ed.jp ホームページ:http://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

「6月はいじめ撲滅強化月間」、笑顔あふれる学校に！」

こばやし ひろとし
校長 小林 広利

私たちは、平成23年3月に大地震と大津波で多くの尊い命を失った東日本大震災を経験しました。その後も、平成26年9月には御嶽山の噴火災害、平成28年4月の熊本県熊本地方を震央とする震度7を観測する大地震、平成29年7月の九州北部豪雨をはじめ、多くの災害で多数の方々が犠牲となっています。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今なお、避難生活を余儀なくされている方々への支援と応援を続けていきたいと感じています。

東日本大震災から1ヵ月後、津波に流された岩手県陸前高田市の自宅跡で涙を流しながらトランペットを奏でている少女がいました。岩手県立大船渡高校3年生の佐々木瑠璃(ル)さん(当時17歳)は、震災から70日たった4月20日に、津波の犠牲になった母らを思いながら、ZARDの「負けないで」を、大勢の観客が聴く東京のコンサートホールで、悲しみに負けずに披露してくれました。

また、石巻市立北上中学校1年生の大槻晃弘(アキヒロ)さん(当時12歳)の作文「くよくよせずに、お母さんの分まで」が某新聞に載っていたので紹介します。「津波の時、お母さんと2人で家にいました。突然、津波が襲ってきて窓の外に飛ばされました。車の上に乗ったり、木の板にしがみついたりしているうちに気を失い、2時間半後、家から約1キロ離れた地面で目を覚ました。お母さんは1ヵ月後に遺体で見つかりました。『家の裏山に逃げよう』と言っていれば良かったなと思います。避難所では小学生とサッカーをして遊んでいます。中学生になったし、くよくよせずに、お母さんの分まで頑張ってお母さんの分まで生きていきたいです。」

もし、時間が戻せるのであれば、震災の前に時間を戻し、安全な場所に家族とともに避難してほしい。亡くなった父や母、息子や娘など多くの方々が戻ってほしい。誰もがそのように願うだろう。被災された方々とまったく同じ気持ちにはなれないのだが、被災された方々とともに笑顔のもどる日本にしていきたい。そう思うのは、誰もが同じだと思います。

大原中学校の皆さんには、改めて命の重さや尊さを考え、今、自分ができることを精一杯やれる生徒であってほしいと願っています。現在の大原中学校では、多くの皆さんの活躍が見られます。先日は、通信陸上競技大会を応援に行きましたが、陸上部女子部長の戸田さくらさんが、さいたま市を代表して立派な選手宣誓を行ってくれました。学校総合体育大会、3年生修学旅行、1年生校外学習など友達とともに力を合わせて取り組む行事が今後もたくさんあります。目標に向かって精一杯の力を出し切ることはもちろん、心を込めたあいさつを大きな声でしっかりと行い、感謝の気持ちを伝えるなど「6つの行動目標」を学校外でも実践してください。そして「あたりまえにできることを増やそう」という5月・6月の生活目標を達成するように心がけましょう。逆に、自分が嫌だと思ふことや友達が嫌がることを他の人に言ったり行ったりするのは絶対にやめてください。それははじめです。残念ながら全国には、いじめが原因で命を落としてしまった中学生もいます。命は、決して取り返すことのできないたった一つ大切なものだということを皆で肝に銘じ、明るい学校、笑顔あふれる学校、いじめや差別の無い安心できる学校をこれからも目指し、皆で創り上げようではありませんか！



【「負けないで」を演奏した佐々木瑠璃さん】